

全静脈麻酔支援システム (AsisTIVA) の導入 -麻酔の安全性の向上と麻酔科医の作業量軽減に期待-

<ポイント>

- ・徳島大学病院麻酔科が、全身麻酔に必須の鎮静薬、鎮痛薬、筋弛緩薬の投与を患者のモニター上の値から AI で投与量を決定して、自動的に投与する「AsisTIVA」を導入
- ・全国で 2 番目の導入
- ・令和 6 年 4 月から導入し、1 年余りで 200 例以上経験
- ・麻酔科医の業務量軽減と麻酔の安全性向上に寄与する可能性

<報道概要>

徳島大学病院麻酔科は令和 6 年 4 月より、AI 制御によって全静脈麻酔を支援するシステム「AsisTIVA」を導入しました。本システムは日本光電工業株式会社が福井大学医学部麻酔・蘇生学と共同開発したもので、徳島大学病院は全国で 2 番目の本格導入施設となります。全静脈麻酔支援システムでは世界でも AsisTIVA しかありません。我々はこれまでに 200 例以上の手術に使用し、安定した麻酔管理と麻酔科医の業務軽減効果を確認しています。

AsisTIVA は、脳波モニター (BIS) や筋弛緩モニターの数値に基づき、鎮静薬・鎮痛薬・筋弛緩薬の投与を AI が自動調整します。これにより、常に適切な麻酔深度 (麻酔効果の深さ) を保つことが可能になり、麻酔の質と効率の両立が期待されます。

地方の急性期病院では、手術件数の増加に対して麻酔科医や看護師の人手不足が深刻です。厚生労働省も多職種連携を推進しており、AsisTIVA のような先端技術は医療現場の負担軽減と質の確保に資する重要なツールと考えられます。

徳島大学病院では、今後も AI と人が協働する持続可能な麻酔医療のモデルづくりを進めてまいります。

お問い合わせ先

徳島大学病院麻酔科

担当者 診療科長 田中 克哉

電話番号 088-633-7181

メールアドレス katsuya.tanaka@tokushima-u.ac.jp